

## 神のみわざの不思議

ゼカリヤ書8章

「その日には、たとい、この民の残れる者の目に、不思議な事であつても、それはわたしの目にも、不思議な事であろうか」と万軍の主は言われる。(6)

捕囚から帰還してエルサレムを再建しようとする民に対し、主が与えてくださった祝福の約束が告げられています。このとき、老人や子どもたちの姿が街から消え、糧を得るための働き場がなく、農作物は実りが少なく、周辺の国々に絶えず脅かされていました。

困窮するイスラエルの民をねたむほど愛しておられる主(2)は、荒廃しているエルサレムがもう一度かつての繁栄を取り戻すであろうことを約束します。主なる神が彼らを祝福するということです。けれども目の前の現実には打ちひしがれていた民の耳には、そのような祝福の約束はとも信じられない言葉、不思議なことしか思えませんでした。主の言葉を信じられない民に対して、主はご自分の約束が確かであることを告げられます。「たとい、この民の残れる者の目に、不思議な事であつても、それはわたしの目にも、不思議な事であろうか」と。人間の目には信じられない、不思議なことのように見えたとしても、神には何も不思議なことではなく、当然のことであると言われるのです。

今のわたしたちにとつても、主の約束の言葉はなかなか受け取りがたい、不思議な世界の事柄のように思えることがあるでしょう。けれども主にとつて不思議なことはありませぬ。全てを治めておられる主は、ご自身の計画の中でみわざを進めてくださるのです。